

林整備を通じ、木の文化の継承を目的とし、平成十八年に協定を締結し、整備している場所です。

南木曽町長から「この森の木が使えるのは何百年も先だが、地道な下支えがあつてこそ、伝統工芸が残っていく。下流域の方々と手を携えて木や緑を守っていければ」とあいさつがありました。

参加者は猛暑の中、草刈作業に汗を流し、「山が好き。出来る範囲で森林づくりを手伝いたい」「作業をすることに よつていい空気を吸つていい汗をかくことができる」などの感想が聞かれました。

今回、作業をした林が南木曽ろくろ細工等の伝統工芸品の材料として利用できるまでには長い年月がかかります。

今後、地域だけではなく、下流域の住民とともに協働で取り組むなど「木の文化を支える森づくり」について情報発信していくこととしています。



下刈りの他歩道の整備作業も実施



作業を終えた参加者の皆さん

### 的確な林道・治山災害等把握に向けて 現地研修を実施

「南木曽支署」七月九日、基幹作業職員を含む全職員を対象に南木曽国有林下山沢林道において林道など土木災害の調査方法について研修を実施しました。木曾谷南部に位置する当署は降水量が多い年で三千ミリに達し、ひとたび雨が降り出すと何処かかきこいで大なり小なりの崩壊等被害が発生します。そこで、土木係と治山係が講師となりポールヤリポイントプを活用し災害報告第一報時の写真撮影や野帳の記入等のポイントを現地において



署一体となって実践的な研修実施

て、実践的に研修を行いました。今まで四苦八苦しながら撮影していた写真もスムーズに出来るようになりました。今回の研修では個々の事例に照らした簡単な撮影マニュアルも作成し、研修後も適時対応出来るように工夫しました。まさに、「備えあれば憂いなし。」七月十二日から降り続いた梅雨豪雨被害について、三人一組の十数班体制で調査を実施しました。各班とも研修成果を遺憾なく発揮した確かな状況把握と報告をスムーズに実施することが出来ました。今後、今回の研修のように署が一体となり効果的な業務の遂行に努めて参ります。

### 宮の大イチイ自然観察歩道の整備 「名古屋シティ・フォレスト」事業

「飛騨署」七月二十三日、「森の巨人『宮の大イチイ』」につながる自然観察歩道を整備しよう」をテーマに宮国有林において歩道の整備などを行いました。

「宮の大イチイ」は、高山市一之宮町の宮国有林に自生する、日本でも最古級のイチイです。この大イチイにつながる一週約四百メートルの自然観察歩道は所々足場が悪く歩きづらい状況にあつたため、今回名古屋シティ・フォレスト事業においてその整備を行うこととなりました。

梅雨明け後の開催で当日も暑い一日となりましたが、作業を行った宮国有林内は比較的涼しく快適に作業を行えました。午前中は、班に分かれて歩道と林内の水場の整備を行いました。歩道整備では、近くを流れる「ツメタ谷」から石を運んできて敷き詰める作業を行い、石運びを任せられた参加者は大粒の汗を流しながら作業に取り組んでいました。午後からは木製ベンチの設置も行い、協力して仕上げたベンチの出来に参加者も満足げな様子でした。活動の最後には自然観察会が行われ、森林官による大イチイの説明に皆熱心に聞き入っていました。参加者からは、「宮の大イチイまではなかなか来ることが出来ないの、そんな場所が作業が出来て良かった。」「天然林に覆われた林内は気持ちが良い、快適に作

業が出来た。」との感想をいただき、宮  
国有林ならではの作業を楽しんでいただ  
けたようでした。



歩道整備で石を敷き詰める参加者

### 森林環境教育 最盛期

「愛知所」次世代を担う子供達へ、NP  
Oや教育関係機関と連携・協働して実施  
している森林環境教育「裏谷原生林自然  
観察案内」は、平成十二年から毎年行わ  
れており、今年も五月二十日から九月  
十六日まで豊川市内の小学校二十五校、  
一千八百九十五人の児童を対象に実施し  
ております。

二泊三日の宿泊体験学習にあわせて行  
われるため、夏休みに入る七月下旬に集  
中し、盛夏の今が最盛期となっており連  
日職員が交代により講師対応していま  
す。

自然観察案内が始まる前の四月には、  
対応する職員を対象に研修会を開催し、  
講師としてのレベルアップとスキルアッ  
プを図り、質の良い森林環境教育となる  
よう努めております。

蜂やダニ・ウルシなど危険な動植物に  
は十分注意を払い、また、天候が急変し



段戸湖の前にて子供達とともに

た場合は、柔軟にプログラム変更を行っ  
て、児童達が安全に楽しく五感を通して  
森林の役割や大切さを学んでいます。

## 平成二十二年 度 永年勤続職員表彰式

平成二十二年度中部森林管理局永年勤  
続職員表彰式が行われ、城土局長から一  
級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者  
に対し、永年にわたる国有林野事業職員  
としての勤労を称えるとともに、精勤章  
の賞状が授与されました。

精勤章受章者は次の方々です。

### ◇一級精勤章

(勤続年数三十年以上)

- 技 柳澤 元雄 (企画調整室)
- 技 筒井 康司 (職員厚生課)
- 技 長田 昌幸 (計画課)
- 技 岩下 良治 (森林整備課)



一級精勤章受章者

- 技 渡邊 修 (森林整備部)
- 技 岩倉 豊樹 (富山署)
- 技 谷澤 功志 (北信署)
- 技 小須田 啓 (東信署)
- 基 須田 千治 (〃)
- 技 山本 文男 (南信署)
- 技 織部 諭 (〃)
- 技 木内 重明 (木曾署)
- 技 中畑 孝史 (〃)
- 技 宮澤 昌弘 (南木曾支署)
- 技 稲川 年秋 (飛騨署)
- 技 橋本 角則 (飛騨署)
- 技 金森 晋 (岐阜署)



二級精勤章受章者

- 基 伊東 良市 (岐阜署)
- 技 三浦 勝巳 (東濃署)
- 技 小竹 尚久 (〃)
- 技 川浪亜紀子 (計画課)
- 技 光坂 紀治 (富山署)
- 技 藤井 勝 (北信署)
- 技 芳沢 真一 (木曾署)
- 技 中屋 健次 (東濃署)

### ◇二級精勤章

(勤続年数二十年以上)

五名

二十名

# 人のうごき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽森林整備部治山課技術専門官（伊那谷総合治山事業所）（木曾署治山課技術専門官） 杉本 彰二

▽木曾森林管理署治山課技術専門官（森林整備部治山課技術専門官（伊那谷総合治山事業所）） 三島 文雄

▽北信森林管理署木島平森林事務所森林官（木曾署駒ヶ岳森林事務所森林官） 西村 進

▽中信森林管理署治山課治山第四係長（木曾署治山課治山第一係長） 小嶋 友和

▽南信森林管理署治山課治山第二係長（中信署治山課治山第四係長） 中屋 忍

▽木曾森林管理署治山課治山第一係長（南信署治山課治山第二係長） 佐藤 義和

▽木曾森林管理署駒ヶ岳森林事務所森林官（北信署木島平森林事務所森林官） 大橋 孝宏

▽中信森林管理署業務課付（中信署波田森林事務所森林官） 岩崎 剛

▽富山森林管理署業務課駐在（森林育成係）（富山署神通森林事務所） 向山 剛

## 安全作業で幅広い業務を実施

飛騨森林管理署町方森林事務所班

「飛騨署」当事務所は古都高山市の東側、乗鞍岳の山麓に広がる国有林約四千七百㊦を管理しています。

管内の乗鞍岳は中部山岳国立公園の南端に位置し標高二千七百㊦の畳平までは乗鞍スカイラインが通じており手軽にバスやタクシーで登れることから年間二十万人以上の観光客が可憐な高山植物や美しい山岳の風景を求めて訪れます。また、乗鞍岳の山腹に官民併せて三千㊦に広がる秘境五色ヶ原は日本最後の中間山地帯の自然景観の保全を目的にした日本初の認定ガイド同行の入山規制を設けており、年間約五千人がその貴重な自然を体感しています。



啓蒙看板制作中の職員



林道維持作業中の職員

のこと、長い経験がはぐくんだ先々までを見越す眼力を発揮して安全に快適に効率よく仕事を進めたいと思います。

## 行事・協議会の予定

◎岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書締結式

9月2日 岐阜県庁

◎親子森林体験隊

9月4日 八ヶ岳（白駒の池）

◎ふれあい講座

9月4日 愛知県瀬戸市 森林交流館

◎長野県森林づくり指針第4回専門会議

9月9日 長野県庁

◎木曾川・森づくりin赤沢

9月11日 赤沢自然休養林

◎名古屋シティ・フォレスト事業

9月15日 東濃署管内

9月28日 北信署管内

町方現場班は林道維持作業や造林地の歩道整備を中心に森林保全管理業務や森林官補助まで幅広い仕事を担っています。何でも器用にそつなくこなすためにほかの森林事務所からも重宝がられてあちこちへの応援も多く事業の最盛期には獅子奮迅の活躍です。

伝統的に安全に対する意識が強く、朝夕のTBMやラジオ体操をはじめ意識高揚のポスター掲示や安全衛生標語への多数応募など安全に対する積極的な行動は大いに見習うべきことです。

安全に確実に仕事をすることをモットーにしていますが多種多様な地域にわたる業務は日々異なる環境条件や危険因子を伴います。目の前のことはもちろん





**豊橋自然歩道 (豊橋国有林)**

中部局管内の最南端、愛知県と静岡県境に位置し、標高わずか五十メートルから四百メートルほどの丘陵地で、赤石山脈末端の山稜が豊橋国有林です。

一帯は、石巻山をはじめとした展望絶佳な弓張山系や、「高山の蛇穴」「葦毛湿原」など、地質・植物学上も貴重な所が多い地域で、石巻山多米県立自然公園に指定されています。

「自然歩道」といえば東京と大阪を結ぶ「東海自然歩道」が有名ですが、「東海自然歩道」の計画が発表された昭和四十三年、そのルートが、豊橋市内を通らないことを知った市内の自然愛好家の団体代表が集まり、「豊橋独自の自然歩道を作ろう！」と一念発起し、翌四十四年、石巻山自然歩道の整備から始まり、今日まで大岩町の東山(松明峠)から石巻町の(中山峠)まで稜線総延長十六キロメートルの本線と、二川自然歩道支線など十五の支線、巡回遊歩道が市民団体により整備されました。

既存歩道の一部は、歴史的に見ても古くは、信仰の道、交易の道、森林資源の運搬の道として、山中につくられていたが、初期の目的を失い荒れ果て消失寸前の状態から「自然に親しむ遊歩道」としてよみがえったのです。

歩道本線はほぼ中央部にある坊ヶ峰を中心に、南北に縦貫している稜線部からは、富士山が展望できる眺望箇所をはじめ、遠州灘や三河湾、南アルプス、浜名湖が展望出来ます。

また、周辺の山麓には、植物群の宝庫として人気がある「葦毛湿原」や、奈良時代に創建されその後幾多の兵火に遭いつつも数々の重要文化財が保存されている「普門寺」をはじめ、京都と鎌倉を結ぶ鎌倉街道として戦国時代も重要な戦略拠点であった「船形山城址」などの名所・史跡が点在しております。

四季を通じて散策や山歩きを楽しむことができ、アクセス箇所も多いことから身近な自然歩道として豊橋市民に親しまれています。

近隣住民の方には健康維持・増進のため日課として歩いている方もみえます。

**所在地**

愛知県豊橋市(豊橋国有林及び大沢国有林)

**◆アクセス(主な登山口)**

○二川コース

JR二川駅から豊橋自然歩道の南の起点、松明峠まで徒歩約四十分

○葦毛湿原コース

豊橋鉄道「飯村・岩崎線」「岩崎」バス

停降車、三百三十メートル程東に登山口、豊橋自然歩道本線まで徒歩約五十分

○普門寺コース

JR新所原駅から普門寺まで徒歩約六十分

○中山コース(大沢国有林)

豊橋鉄道「西郷小学校前」バス停降車、一・五キロメートル東に中山自然歩道登山口



豊橋自然歩道本線コース



普門寺本堂



船形山城：なだらかな稜線が船底の形に見えることから船形山と呼ばれる。左側の山頂に城址



歩道本線から浜名湖・豊橋市内方面を望む